

第5回 新大橋景観検討委員会 議事要旨

日時及び場所

日時：平成30年9月6日（木）13時30分～17時30分

場所：松江市市民活動センター 交流ホール

出席者

大屋委員、小草委員、大作委員、田中委員、二井委員長、本間委員、吉田委員、渡部委員

議事次第

1. 開会
2. あいさつ
3. これまでの検討経過【説明資料】
4. 議事
 - 1) 橋のデザインについて【資料1】
 - 2) 橋上空間のデザインについて【資料2】
 - 3) 橋詰および市民参加について【資料3】
 - 4) 今後のフォローアップについて
5. 閉会

配付資料

委員会次第

座席配置図

委員会規約

委員名簿

説明資料 これまでの検討経過

資料1 橋のデザインについて

資料2 橋上空間のデザインについて

資料3 橋詰および市民参加について

議事概要

※委員会を欠席した委員には予め意見を伺い、委員会にて事務局より報告した。

この議事要旨にも当該意見を記載している。

1. これまでの検討経過

- ・意見無し

2. 議事1) 橋のデザインについて

【意見】

①橋全体

新大橋整備基本方針に「歩行者が主役の橋」と読み取れるコンセプトを掲げているが、歩行者が主役ということになると、歩道空間をどうするかが非常に大事。しかし、この橋の平面形状は単調すぎる。前回委員会では、ベンチを置くような議論もあったが、ベンチの置き場所などない。そこで、アルコーブが考えられるが、不可能なのか。できないなら、佇みたくなる、橋を渡ってみよう、歩いてみようという歩道空間の工夫がもっと他に何かないのか、という気がする。

今までの委員会で、アルコーブを付けると休む場所を限定することになってしまうのではないか、あるところで休むということ強く出すよりは、全体的に休めるように、手すりの形状を工夫するなど、橋上空間を歩行者優先として空間の質感を高めたデザインにするということを議論し、そういう方針で来ている。

勝手にどこか好きところで佇めという話では、もてなしも何もない感じがする。まだ余地があれば、何か引っかかりができるようなものがディテールとしてできればいいと思う。ずっと同じ表情では佇むことにはならないと思う。ベンチも置けない。

南岸橋詰にはベンチが計画されている。これから詳細を検討していく中で、幅員が一定だとしても繰り返し出てくる要素、デザインを少し工夫してもらえればよいのではないか。

以前もこの桁のボリューム感を抑えるディテールを考えてもらえないかという話をした。箱桁の底面のボリューム感に圧倒される。箱桁の底辺部に5本リブがあるが、そのリブを見せるとペタンとした底面に繊細な線が出てきて少くくはボリューム感が消えるのではないか。全部ではなく、少なくとも中央部だけはリブを表して、少しでもボリューム感を消すことはできないか。

(上記質問に対する事務局回答)

意見の大事なポイントとしては、全体のボリューム感を軽減することと理解しており、桁を4箱から3箱に変更したことで、桁の合計幅が全体で約15%程度減少している。あわせて、桁と床版の関係も少し整理をし、桁高自体も1.4mから1.1mに薄くし、全体のボリューム感を減らす努力はかなりしてきている。提案の形で進めたいと考えている。

維持管理の視点でいくと、リブが出ると先端には塗装が乗らないのでそこから全部早く錆びてしまう起点になることもある。最初の美しい状態を長く見たいのであればなるべくフラットにした方がよい。景観上なるべく凹凸がないようなもので全体の形状をシンプルにした方が長く美しい形を見ることができると思う。

細い方がよく水が切れる。むしろこのようにペタンとしていると、水が回った時に平面の部分が濡れて、そこから錆びていくということもあり、どっちもどっちだと思う。リブの錆が気になるのであれば、気を遣って防水をきちんとするなど、やりようがあると思う。

桁を3箱にしたことで、箱の無い部分が広く空いたため、箱のある部分と無い部分で結構陰影がついてよいと思う。ここに5cmくらいのリブを付けてもほとんど目立たない、パースで見る限りあまり変わらないという印象がある。そうすると維持管理というのが非常に重要な観点で、塗り替えも下面になり、しかも水分と近いところなので、できるだけ長持ちするものがよい。

この辺りの塩分調査では、約0.6mddという通常の海岸沿いとほぼ同じ数値の値を示しており、厳しい環境になることもあって、リブが付くと、例えば20年持つところが15年、それ以下になる可能性が非常に高い。また、塗り直した時にいくら慎重にやってもムラになる。面が小さいとすべて綺麗に塗れない可能性があるため、塗り替え時期がもっと短くなり、維持管理費が1.5~2倍ぐらいかかってくるようになると思う。

②張り出し部

形状としては非常にシンプルになってよいと感じるが、歩道部の排水経路の最後の処理はどうなるのか。

(上記質問に対する事務局回答)

歩道・車道それぞれ橋の端部で橋の下に落として処理をする。

橋の端部できれいに排水を落とすことを今後検討するときに考えていただきたい。

③橋脚

表面仕上げについては、小幅板が工夫の限界ということだろうから、これはこれでいいが、側面の上幅を 20cm すぼめて何か効果があるのか。見え方として、もう少しメリハリをつけられないか。

それと頂部が切りっぱなしという感じである。他はいい具合になっているので、頭頂部に少し段を付けるなど、もう少しディテールを考えた方が橋の見え方が違ってくると思う。桁と橋脚の接続の部分で構造美みたいなものを見せるよう、もう少し気を遣っていただければと感じる。

橋脚と桁の接続部は、橋脚の上に四角いゴムの塊がそのまま乗っているような形になる。橋脚と桁の隙間の大きさによって、どれくらい見えるかということもあるのかなとは思う。

支承の交換を考えたときに、意見のような天端処理はできるのか。先ほどの意見は、極端に言うと支承・主桁がない部分はコンクリートを上げるというアイデアではないかと思う。それをやった場合に、将来支承の交換ができないのではないか。

(上記質問に対する事務局回答)

支承の交換に必要なスペース等まで具体的な検討をしていないが、いわゆる支承隠しという名前と呼ばれている支承の部分を隠したり、飾りをつけたりするという対応はおそらくやろうと思えばできると思う。しかし、橋脚は見えてくる高さがとても低いので、シンプルにした方がより桁の方が生きると考え、今の形状を検討している。少し丸みを持たせるような形にするとまた表情も違うだろうし、そういう細かいところで形状を少し調整することはできる。

横桁の真下のところをスプーンでくり抜いたようなことをやったときに、大きな地震が発生した際の支承交換などに支障があるようだったらそういうことは難しいかもしれないという意見だった。詳細設計の中で、大規模地震が発生した時の支承交換などに配慮しながら天端の処理について考えていただきたい。

④色彩

色彩について、桁の色は青系であればどれがベースになってもよいが、松江は曇りや雨の日が多いので、少しだけでも灰色が混ざっていると落ち着いて見えるのではないか。また、高欄の色は少しだけでも黄色や茶色が混ざっていると落ち着きがあるし、汚れも目立ちにくいのではないか。

実際の塗装は塗装見本ほど艶がないものか。

(上記質問に対する事務局回答)

はい。本体に使用する塗装の仕様は橋梁の塗装仕様のもので、その中でどれほど操作できるかというのは分からないが、艶があったとしても経年で少しずつ艶がなくなっていく性質もあるので、テカテカがずっと続くということはない。

耐久性の違いがあって、艶のあった方が耐久性は高く、ある程度の期間色落ちはしない。艶消しというのは見た目がよいが早く塗装が劣化するという特性がある。

色は、おそらく委員全員が違う意見を持っていると思う。

色は個人の感覚が違えば、紙に印刷しているもの、色標本、薄い鉄板に塗装したもの、実際の橋梁用の耐久性のあるものを塗った時の見え方はまた違うので、基本は前回委員会で結論づけたように、最終的には何個か現場で用意して、それを見て決めたい。

好き嫌いの個人的な感覚でいうと絶対に水色は反対である。水の上に水色の橋が架かってマッチしているというが、水はもっと複雑な色をしている。是非に現場で決めていただきたい。何色かよく分からない、そういう色をもっと作ってもらいたい。

資料には水辺を連想させる青と書いてあるが、前回委員会では、大橋川に架かっている橋が青系で、それに皆が非常に親しんでいて、そういうものを継承していくということが基本的にはスタンダードな考え方ではないかというのが、青系が推された一番の理由だったと思う。水の近くで、水が青だから青という議論ではなかった点を補足したい。

宍道湖大橋は非常にいい色で、ブルーではなく青紫。中間の色で、そこら辺の色は全部同じような色。宍道湖大橋の色はすごくいい色だと思っている。個人的には紫色のような単純でない色を目指してもらいたい。

前の新大橋の色は今よりもっと青く、数年前の塗り替え時に、「青すぎる、かなり灰色がかった色の方がよい」という議論があり、その時点で色合わせをして今のような色になったと記憶している。灰色にすると水面の色が移って結構青っぽく見える。サンプルの色が必ずしも現場で同じように見えるとは限らないことも踏まえておく必要があると思う。

松江大橋の色もやはり塗り替えたが、この時はグレーベースの色で、若干青みが入っていたと思うが、その時の決定では特に青を強調するようなことではなかったと思う。

今の写真を見ると松江大橋も新大橋も青に近いが、そうではないということか。

多分水面の色がかなり入っている気がする。

松江大橋が色を塗り替えて10年弱と記憶している。宍道湖大橋はそれよりもちょっと後だが少し退色している。それでそのマンセルの色を信用していいかという問題はある。

今回の場合は張り出しが広いので、資料4ページの右下にあるような形で昼間の光が当たることはないので、水面の色が映るような角度でも見てみるという決め方は重要かと思う。

色を付けてその色でというよりも、水面の光など周辺の色が橋にうまく映って変化があるような色がよいという感じがする。だから、今の新大橋の色は悪くなくて、それが必ず最初の塗装の色から変化するので、変化する中で訪れた人が楽しめるような色合いのつけ方を考えるといいと思う。どの色がいいかという議論もあるが、一つの事例として2009年に塗られた色が今の色になって、それをどう我々が感じるかというのが非常にいいものがあるかと思う。

資料5ページの右上は、夕日に染まるとまた違う表情である。これは少し薄めの色だからこそ季節の光の当たり具合によって、色にもゆらぎが出るという印象がある。

新大橋というとブルーのイメージが小さい時からあったが、確かに前のブルーは青すぎると思っていた。今の新大橋を見るとちょっと色褪せた感じがあるので、その辺りどの程度で色褪せていくのか少し心配。ただ、資料6ページにあるような感じでじっくりくるような気がしている。色としては濃い色の方が好きだが、今の夕日が当たって影が目立つということなら薄い色の方がいいという気がする。水辺の空間や周りの環境に合うような橋という事で絞られつつあるので、じっくりと馴染むものの方がいいという気がする。

時間帯によって色が変わるというのはすごく重要なことと思う。今の新大橋は完全なグレー、無彩色か。

5PB だからブルーが少し入っている。

島根県の色はどうか。薄紫の山並みという歌があるが、県の色ではないのか。

(上記質問に対する事務局回答)

確認できないが、県の色というのは無いと思われる。

臙脂（えんじ）をよく使っていると思う。国体とか島根県選抜となると臙脂色を使っている気がする。旗の色が臙脂で、島根県のマークになっていると思う。

松江は曇りもあるが、澄み渡った薄い青がかかるようなイメージがある。山並み等をイメージしていくというのは色を選ぶときには重要かもしれないが、赤、黄、臙脂などは周りに合わない。

日本の伝統色など風景になじみやすい候補色を選ぶということで、今日は決められないのではないかな。

青系をベースに選ぶということでどうか。青の中にもかなり違う色が混ざっていて、そういう意味では青の中にもバリエーションは結構ある。

それにグレーを混ぜたブルーグレーよりも少し暖かみのある色はどうだろうか。

季節や時間帯によって少し色が変わる、そういう表情の違いを生み出せるような日本伝統色の中から青系のものを選ぶことでどうか。青系としてブルーグレーも候補に入る。

大橋川で比較的青系の桁の色が使われてきているので、そういった大橋川の風景と合わせることも含めて青系をベースに、季節や時間によって橋自体に色々な表情が出るようなものを、色決め段階までに複数選び、現地ですできるだけ水に映すなど、張り出しで日陰になるシチュエーションで見決めていくような形でどうか。

塗り分け方、特にパターン 3 に関しては、大橋川に架かっている橋が、実は意外に白っぽい手すりが多く、風景に非常にあっていると思う。

パターン 3 の場合は、ブラケットと高欄の支柱の部分が完全に離れているデザインがよい。そうなればパターン 3 がよいと思う。

一般的に、桁とブラケットが同一メーカー、高欄は別のメーカーである。最終的には合体するがそういった責任分担もある。将来的な維持管理の目で見たらパターン 3 の方がよい感じがする。

パターン 3 は賛成だが、高欄のトップレールの色も同じ色というイメージか。

(上記質問に対する事務局回答)

トップレールも含めて高欄全体が一色というイメージで考えている。

【総括】

- ・橋全体、張り出し部、橋脚は、事務局提案のとおりとする。
- ・橋脚天端部は、維持管理を考慮しつつ、美しく見えるよう配慮する。
- ・橋端部の排水処理がきれいに収まるよう配慮する。
- ・色の塗り分け方は、事務局提案のとおりとする。なお、ブラケットと高欄部分が完全に離れているようなディテールを検討する。
- ・高欄の色は、無彩色系の明るめとする。
- ・桁とブラケットの色は、青系をベースとする。また、色決めをする段階において、季節や時間によって橋に色々な表情が出るような色を複数選び、現場にて水面からの光の反射、日陰といった実際の桁に近い状況下で塗装見本を掲示して決定する。

3. 議事2) 橋上空間のデザインについて

①橋上空間のデザイン方針

資料 10 ページの、橋上空間全体の②で「橋外から見ても「モダン」で「渡ってみたいくなる」仕掛けを盛り込む」と書いてある。この仕掛けというのは何を示しているのか。

(上記質問に対する事務局回答)

地覆への釉薬タイルの貼り付けを今回提案している。地覆の部分は橋の上からも、橋の外からも見える部分になるので、そこに島根の技術を使って焼いたタイルを貼ることをモダンで渡ってみたいくなる仕掛けとして提案している。

②舗装－視覚障がい者用誘導ブロック

都市の文化度が問われるところと思うが、非常にいい提案である。松江はグレー系がすでに使われているのであまり抵抗がないと思うが、基準上も、黄色でなければいけないということはなく、色が区別できるだけの輝度比が確保されているかどうかの問題。歩道が提案のような暖かみのある色になった時にグレー系を入れない場合、黄色い帯の両側に別の濃いラインを入れるということがあり得るため、これで問題がなければグレー系でいきたいと思う。

③舗装－自転車専用通行帯

資料 21 ページに、自転車専用通行帯は「歩道塗装と相性がよく、空間の統一感が感じられるベージュ系の一部表示」とある。本当にこの方がいいのか。これで悪くはないが、歩道と同じ色で自転車専用通行帯を全面仕上げると、車道と自転車専用通行帯がはっきりして安全。また、歩道と一体感が生まれ、歩道が非常に広く見える。仕上げは違うということだが、歩道と同じような色合いのベージュ系で統一するというのはどうか。

全体表示としなかった理由などあるか。

(上記質問に対する事務局回答)

路面表示の仕方の想定として、歩道と同じ脱色アスファルトとすることが難しいなかで、歩道は脱色アスファルトの自然な色味に対し、路面表示は人工的に作られた色で表現することになり、これを全体に塗ると色味も合わず雰囲気が悪くなること、全体に塗った場合に雨が降ったときの滑りやすさといった安全面を考慮して一部表示という提案をしている。

ペイント等だと滑りやすいというのは非常によく分かる。同じ色になりにくそうなのが厄介な点だが、歩道が非常に広く見えるという効果は大きそうである。

逆に、通行帯は車道で歩道ではないという事を強調する必要はないか。景観上広く見えていいと思うが、あくまでも車の通る道ということが気になった。

全面にしたときは、どこで切るかが非常に難しい問題になるかもしれない。

どちらかという塗らない方がいいと思う。最初はすごくきれいだが、塗ったものは経年劣化で色のムラができる。橋上空間はなるべく自然の色、自然の素材を使いながらその色合いを楽しむようにし、劣化を考えるとなるべく塗る量を減らした方がいいと感じている。

やはりもう少しわかりやすい通行帯を考えるべき。これでは自転車専用通行帯としてちょっと弱いと思う。色を全部塗るのかどうかももう少し考えて、ラインを太くするというのもある。

青でない色を採用するということをぜひやってもらいたいと個人的に思っている。なかなかいい色を使わずに、東京など平気で青を使っているところが多いが、歴史のある松江できちんとした色を使うと、他の歴史的な町に非常に大きな影響を与えると思うので、いい色を使うということをぜひやってもらいたい。

ペイントという点については、剥げやすいので、あまり使わない方がいいかと思うが、今後の検討でペイントじゃない方向で、幅をどう調整するかというのはある。確かに自転車と車道の区別、自転車は車道ではあるが、自転車が安心して車道の脇を走れるためにも、車が入ってこないという安心感が必要。

今後、おそらく警察との協議も必要になると思うが、それを踏まえながら橋上空間の景観に配慮してもらいたい。

(上記意見に対する事務局説明)

資料に表示をしていないが、自転車専用通行帯の表示としては自転車のマーク、あるいは進行方向というのを表示する決まりになっているので、そういったものがあれば車が自転車専用通行帯であると視認はできる。

できれば今回の表示をこの路線で先例的にやることによって、少しずつ県道を中心に範囲を広げていくということも視野に入れてもらえるといい。

④高欄

資料を見る限りは、ダブル案は正面に見える二本線がきつくなりそうなので T 字変更案がよいと思う。

参考になるかわからないが、海外で、12° かどうかはわからないが高欄の角度がかなりきつい橋を渡ったが、外観上もよいと感じた。また、横棧ビームが一番心配である。最近の幼児も結構大きくなっているので頭が出ないか心配。また、丸材より角材の方が握りにくいと感じる。

この間隔は基準か何かを使って決めているのであれば補足してほしい。

(上記に対する事務局補足)

基本的には基準に沿って検討しており、間隔については問題ないと考えている。

間隔としては、原寸模型を見て、等間隔の場合と徐々に広がる場合があり、徐々に広がる場合は下の方に行くと詰まっていき、背景が見えにくくなる感じがした。どちらかというとならば等間隔の方が水面との親密性がある形。あるいは四角を使って視線を誘導するようにうまく位置を決めると、非常に水との親しみやすさを感じるように感じた。

高欄がダブルになってよかった。それと、色分けができるようにブラケットと支柱の部分がはっきりと分かれている。さらにもう少し強調してもいい。支柱をもう少し長く伸ばすと、さらにはっきりと高欄の部分とブラケットが離れるのではないか。

ダブル案の方がかなり繊細な感じがする。2本の縦の間と間の隙間のところにはボルト等が出ない構造、形状になっていると思うが、実際もそうなるのか。

(上記質問に対する事務局回答)

はい。

12°でも歩道に手すりが飛び出すという事はないか。

(上記質問に対する事務局回答)

今の角度は、歩道の幅を狭めないようにトップレールの位置を変えずに、付け根部分が前に、川側の方に出たり引っ込んだりという調整をしている。

下の地覆の大きさがちょっと違っているのは、それで調整しているからか。

(上記質問に対する事務局回答)

はい。

基本的には横棧だから内側に傾けた方がいいと思うが、前は角度がきつすぎるかもしれないという意見があって少し戻した8°が提案されていると思うが、12°くらい傾けた方がいいと思うか。

海外で見た橋は全く問題なく感じた。別に角度を測ったわけではないが、結構角度があり、歩道幅もことと同じ。ホテルの中にあり、結構幅員があるところを一日何千人渡ってくる、それなりに評判はいいようだった。

原寸模型を見ると子どもが登ることがかなり懸念される。安全面でいうと傾いていた方が少しはいい。また、角度が緩いと歩道の上から見えるタイルの範囲が減ってしまうため、傾いていた方が歩道から見えるタイルの範囲が広がるということもある。さらに、橋の一つの特徴として傾いていた方が、他の橋にはない感じがする。

傾きによって、橋を歩いている人に見えるタイルの面積が変わることや、できるだけ傾いていた方が登りにくいということもあるため、サイズ感を見ながら可能な範囲でディテールを検討する中で、今ここで角度を決めておかない方がいい気もする。基本的には12°に近づける方向で倒すこととし、ディテールとボリュームを見ながら最終的に確定させてほしい。

⑤親柱

橋上に自然素材がないので親柱の素材は自然石がよいような気がする。形状は高欄の高さとの連続性を重視し、あまり高くない方がよいと思われる。

例えば橋名版など、部分的にでも島石を使えるとよい。

島根の鉄文化に通ずる素材、実にいい。鑄鉄製ということだが、見るからに鉄、表面がつるつるしたものじゃなくて錆が出てくるような手作りの鉄、そういうものがより鉄というものをアピールするのではないか。

基本的には赤茶けた錆色になる。錆が出てくる。触るとボロボロするか。

雨が当たるところにあると比較的きれいな状態にはなると思う。橋の裏側にあると雨がかりがないので、錆が成長する。実際の出雲の博物館のところはニッケル系の赤いもので使っているが、裏側は案外腐食してくるかもしれないが、雨がかりのところは非常にきれいにはなる。あそこは色をきちんと出すためにあえて塩水をかけて色を作って持ってきてある。建築用だとそういう対応をすることもあるので、親柱に採用するなら同じような対応をすることになるだろう。自然の色だが、徐々に徐々に落ち着いてくる。10年とか15年経ってやっと目標とする色になるので、最初は非常に赤い、若い錆になる。塗装と逆で、塗装は最初は非常にきれいで経年劣化の状態が最初と違ってくるが、錆は徐々に成長して最後落ち着いた色になると。どんどん落ち着いた茶色に近くなっていく。

潮風にあたる部分はムラになって汚らしくなるという話ではなかったか。

(上記質問に対する事務局回答)

橋のたもとに親柱を設置するが、川からの水分が風で飛んできており、特に冬の強い風で川から水分がその場所に供給される。また塩分が混じった水分なので、そういったものが含まれたものが付着する箇所です錆がでるようなものを使うと、完全に腐食してしまうとか、安定の錆まで行き着かないということが考えられる。自然の現象だからリスクを回避しづらい。確実に色が出せる塗装を提案している。

ちなみに鑄物は県内で作ることができるのか。

(上記質問に対する事務局回答)

調査した限りではこれぐらいのサイズのものを作った実績のあるところはあった。ただ鑄物も形状によって技術が必要とされるので、型を抜くだけの技術だとか、均一に流し込む技術とか、必要な技術によりどこで作るのが最もいいものを作れるのかということを含味する必要がある。

素材そのものの色はどうか。

(上記質問に対する事務局回答)

今のところ、トップレールもそうだが、錆びないように、一度亜鉛メッキをした上で塗装をかけることを想定しており、それが標準的で長期的に長持ちする仕上げと思う。

提示されているサンプルはそういう仕上げになっているのか。

(上記質問に対する事務局回答)

提示しているグレーの鋳鉄サンプルはそうなっている。

親柱はかなり時代を反映したものになるという話で、今の新大橋ができたときはかなりがっしりした石造りの親柱だったし、同じ時期にできた神田町の橋も石で作ったようながっしりしたものだったと思う。バブル期になると非常にモニュメント的で、色々工夫されたものが作られた時代であって、資料 16 ページの A 案と B 案を比べてどちらが今の時代を反映しているかというところ、B 案の方がすっきりした感じで今の時代を反映していると思う。

確かに時代で見るとかつては柱タイプが非常に多かったかなと思う。今回特に水辺に向かって誘っていくという大事な視点が入っているので、B 案の横長タイプの方が水面も見やすいと思う。

色は高欄と同じような薄い色なのか、それとも親柱なので色の変化を付けて高欄と分けるのか。

(上記質問に対する事務局回答)

資料 16 ページの材料比較の鋳鉄のところ「高欄に合わせたグレー（無彩色）とすることができる」と書いたが、柵の先に親柱がくるので、ある程度柵の色に合わせる必要がある。ただ、面として少し広い親柱を、繊細な部材で組み合わせさせた柵と同じ明るい色味でつなげるのはいいかどうかは意見が分かれるところと思う。今は、多少変えるのはありだと考えているが、ガラッと変えて濃くすると重たい印象になる。

私の感覚では、同じ色にすると逆に繊細さが消える。橋の終わりと始まりが区別できるよう、派手ではない景観的な色をうまく組み合わせることで色を強調することもありではないか。ちょっと濃くするのはあり得る。

高さや形状も B 案の方がいいと思うが、高欄とのつながりが感じられない。高欄の手すりや親柱が離れている。つながりを考えると、資料 16 ページの島石の写真や鋳鉄の写真も、手すりが笠木みたいに延びており一体感がある。このように一体的に考え色をポイント的

に親柱だけ色を変える手はある。

(上記意見に対する事務局か説明)

橋が地震によって動きを生じるので、伸縮装置の位置で高欄と親柱との間に隙間を空けている。その隙間を変な形にならないよう取り込みつつ、連続性に配慮したい。

色との関連だが、橋名版が入ると思う。私も同じ色ではなくて親柱は濃い色でいいと思うが、橋名版の色とも合わないといけないと思う。

橋名版はブロンズ製か。

はめるのもあるし、型を鋳物で取るものもある。

⑥地覆

テカリすぎないように艶にも気を配りつつ、橋上の照明や防護柵がグレー系であることから色味のバランスを考え、少しだけでもグレーが混ざっているとよい。

どのような感じになるか楽しみだ。

これはいわゆる工業製品とは違って、一品一品少しずつ色の違いが出てくるので、それを良さとして受け取って、そのムラの表情が出てくるのがよい。屋根の瓦以外にこのような新しい使い方があると、県の橋でお見せすることで、これがまた違うところでずっと使われていくようなことも目指してやってもらいたい。

⑦照明

照明はよいが、警察との協議で、車道の防護柵に黄色いテープや蛍光テープを張られるのかどうか。安全上で貼られ、せつかくこれだけいろんな検討したものが全部台無しになっていくようなところが多い。検討していただきたいのが、光が当たると反射する塗料。昼間はその色で、夜間に光が当たると光る。せつかく景観検討で橋上空間の色を検討した中に、黄色い蛍光テープが沢山並ぶようなことは避けていただきたい。

蛍光塗料や小さな丸い反射するものをあらかじめ埋め込むこともあったように思う。いづれにしても何もしないと何か張られることがありそうなので、あらかじめ対策しておく必要がある。

最近、塗料の中にビーズみたいなものが入っていて光の変化で見えるなど、いくつかそういう製品が出ていると思う。

(上記意見に対する事務局説明)

警察との協議もある。橋上は随分先になるが、景観に影響のないようなもので安全を確保していきたい。

橋全体が資料 21 ページのイメージ②の写真の通りに見えるとすれば、夜はあまりにも暗すぎて安心安全からほど遠い。橋上はいいと思うが兩岸から見たときにこれはどうかという感じ。全体の橋のライトアップについて、強力なライトアップまでは必要ないと思うが、これから多分ナイトクルージング等の水上交通が行われるような気がする。これだけ検討したので素晴らしいものができると思うので、その素晴らしい橋を夜もライトアップして見せてあげると、橋そのものが少しは明るくなるのではないか。

(上記意見に対する事務局説明)

資料 21 ページのイメージ②について、背後の建物の照明が入っていないので非常に暗く見えるのではないかと思う。イメージ③の方は、河岸や背後の建物の照明が入っているのでそうでもない。新大橋に関しては、道路の安全上の必要な橋上照明について提案しているところ。一方、橋の下は船舶の往来があり、航路利用者と今後の協議をしながら、航路上の安全確保のために、例えば橋脚を視認してもらうということになれば橋脚の方に明かりを付けることになる。それが桁をもっと明るくすることになると思うので、今後利用者さんとの協議を進めながら検討していく。

ライトアップを否定するわけではないが、橋単独で見るのではなく大橋川エリアで見たときにどういう光を見せるかという視点で決めてもらいたいと思う。市や国とも協議しながら検討して決めて欲しい。

南岸の橋の下はどういう形になるのか、散歩道になるのか。照明はつくのか。よく落書きされたりするが。

(上記質問に対する事務局回答)

後程説明する予定だが、橋の下は歩けるようになる。その照明の詳細についてはこれからだが、暗いということであれば照明を付けることを検討しなければならないと考えている。今までは通行できない状況であったが、この度の整備で橋の下が通行できるようになり、幅も結構広い。

橋の下は、夜など気持ち悪い怖いところになるので、やはり明るくなるよう照明などぜひお願いしたい。

常時暗いところこそきれいに作らないとすぐゴミが捨てられるなど汚くなる。橋台の前面をどういう納まりにするか、また、最初の方に意見があったように、排水を落とす部分をきれいに処理してもらいたいし、場合によっては暗すぎる場所については灯りを考えるのは大事な視点。

24 時間明るいまちを目指していけばいいと思う。明るいまちにさらに磨きをかけてほしい。

【総括】

- ・歩道舗装、視覚障がい者用誘導ブロック、排水経路の縁石は、事務局提案のとおりとする。
- ・自転車専用通行帯の路面表示は、ベージュ系の色味とするが、安全と景観に配慮した表示範囲とする。
- ・高欄の支柱は、ダブル案とするが、ブラケットと完全に離れているディテールを検討する。また、高欄の角度は、 12° に近づける方向で倒すこととし、ディテールとボリュームを見ながら検討する。
- ・高欄のビーム間隔・形状は、事務局提案のとおりとする。
- ・親柱は、鋳鉄製で横長タイプの形状とするが、高欄とのつながりに配慮する。また、高欄と同じ色にはしない方向で、最終的な形状や橋名版とのバランスも踏まえた色とする。
- ・地覆、歩車道境界は、事務局提案のとおりとする。なお、車両用防護柵へ設置する反射材は、安全と景観に配慮する。
- ・照明は、事務局提案のとおりとする。なお、航路安全上の照明は関係者と協議のうえ必要に応じて検討し、南岸の橋下の照明は必要に応じて検討する。

4. 議事3) 橋詰及び市民参加について

①橋詰

橋の下も護岸を途切れることなく整備するなど、少しでも橋の下の雰囲気をよくする方向で調整してほしい。

我々は、駅から、南岸の連続する水辺に賑わう商い空間を目指している。橋の下を歩いていただいて、途中カフェやレストランがあるなど、水辺空間を最大限利用して活性化につなげていこうと議論しているが、橋の下が大事になる。橋の下の通路は影になるので休憩される方もおられると思うので、木でなくていいが天井らしいルーバー的なもので桁裏

を仕上げておくと、橋の下の空間が心地いい空間になる。

資料 23 ページで、特にこういうベンチを設けて橋を佇めるようにすることはよいと思うので、それに加えて、南岸の方は幅も広く多くの人が歩く可能性があるので、橋台の前面部分の仕上げの仕方、排水の仕方、灯りの取り方、桁の添架物の見え方のチェックをし、何かできることはないか探していただきたい。全面木のルーバーというのはハードルが高いかもかもしれないが、何らかの方法で橋の下がよりよい空間となるよう努力していただくということでしょうか。

鋼製の橋を架けるときにはクレーン等で吊って架けるが、その後、維持管理の際に足場を架けるために、桁にフックをひっかけるための金具が必要になる。それらが後で付いてくると今検討したものと違うようになるので、ぜひ詳細設計の段階で施工や維持管理の際にディテールが大きく変わらないよう配慮していただきたい。

重要な意見で、吊り金具がこれでもかと付いているものが沢山ある。ボルトの配列や継ぎの位置など、色々なところで気を付けていかないと、詳細設計の図面に入らなくても実際に施工時に入れられることは往々にある。そういった管理も含めて丁寧にやっていただいたり、あるいは吊り金具に代わるような、ねじ込み式でその時だけ入れるようなものなど、色々アイデアはあると思う。

(上記意見に対する事務局説明)

これから設計に入っていくが、施工上、最低必要なものについては、景観に配慮しながら入れる。また、施工業者によって施工が楽になるために付けるということがないように、工事発注時に工事の仕様書に明記し、しっかり景観に配慮するように監視していく。

北橋詰の高さが 1 m 近く高くなるので、橋の整備にあわせてぜひ周辺の地権者さんとうまく調整し、背後地利用の仕方を検討していただきたい。ここが一番今までとは大きく変わるところだと思う。

ハードルは色々あると思うが、今より 1 m 上がるので背後地との一体的な土地利用ができれば、非常にいい財産になるので、ぜひチャレンジしてもらいたい。それが魅力の増進になる。努力候補に入れていただければと思う。

②市民参加

市民参加の取り組みは、ぜひやってほしい。色決めに関しては、専門家による検討委員会に先んじて、市民による現地投票を実施し、その後委員会が現地で議論の際に市民投票の結

果を公表し、その結果を踏まえて決定するやり方もあるのではないかと。

既存橋の活用方法としては、新潟県の万代橋のようなモニュメントとして残す方法もある。

市民参加について、松杭の再利用は是非実施してほしい。

市民参加のタイルへの材料寄付について、市民だけでなく全国から集めるのは面白い。そうするとこの橋に愛着が持てる。歩いて自分が寄附したタイルを毎日確認する。するとここにみんなが集まってくる。面白い良い企画である。

材料寄付はぜひやってもらいたい。参加したくなるという工夫は色々あると思うので検討いただきたい。

新潟市民が非常に愛している万代橋というのがあり、その橋のライトアップで昔のライトに復元するという時に、新潟市民が少しずつ出して二千万円の寄附をした。その寄附者に対し、新潟日報が寄附者の名前を新聞一面に載せた。今日は報道機関の方もいらしているので、もしこういうことができたなら協力いただいて寄附者名を全面に出すなど。700件のパプコメをいただいて検討してきた橋なので、ぜひ何らかの形で市民の方が関わられるような、材料寄附はぜひ実現していただきたいと思う。

あと、既存橋の一部は松江高専にいくと素晴らしいと個人的に思っている。

既存橋の一部はぜひ残してほしいと思う。非常に貴重なゲルバーもあるし、リベットで組まれた数少ない鋼橋なので、松江高専に置けるかどうかかわからないが、なるべく後世の技術者の育成も含めて考えていけたらいいと思う。

色決めに関して提案だが、先ほど、最初に市民に選んでもらうという意見もあったが、市民投票したものを委員で議論してひっくり返すというのも意味が分からない話になる。そこで、色決めをする段階の時に、候補色を事前に見ていただき、どれが選ばれてもよい色まで選定し、その色の中でイベントとして投票していただき一番多い色を採用というのはあり得ると思う。全体に調和しているなど最低限クリアしなければならないところもあると思うので、クリアする候補を選ぶところまでは委員会でやるのがいいと思う。

市民が選んだものを却下するのどうかと思うので、やはりある程度候補を選んだ中で、どれが選ばれてもいいようなそれなりの理由付けを我々がした上で、選んで参加いただく方が、市民の方が選んだという形になると思う。

【総括】

- ・橋詰計画は、事務局提案を基本に調整・協議していく。
- ・南岸橋詰は、橋台の前面部分の仕上げ、排水、灯り、桁の添架物の見え方をチェックし、橋の下がよりよい空間となるよう配慮する。
- ・北岸橋詰は、背後地のよい利用が生まれるようできるだけ努力する。
- ・施工時に必要な、桁に取り付ける金具などについては景観に配慮する。また、工事の際に意図しない金具などが取り付けられないよう管理していく。
- ・色決めは、委員会で候補色を絞り込んでから市民投票により決定するなど、具体的方法を検討する。
- ・材料寄附は、できるだけ実施するよう検討する。
- ・その他の市民参加の取り組みについて、実施できるものを継続して検討する。

4. 議事4) 今後のフォローアップについて

【説明】

新大橋整備基本方針の決定や、具体的な橋の形や空間のデザインについて方針が固まったことで、島根県としては新大橋の設計について方向付けができた。

今後は、本日の委員会の取りまとめ結果を松江市景観審議会に諮ったうえで詳細設計に反映し工事に入っていくことになる。橋の完成まで長い時間がかかるが、委員会で方針決定した事項を確実に実施していくため、今後の詳細設計や工事など、事業の実施段階で生じる調整事項に対して、委員長に相談しながら今後のフォローアップをしていきたい。

また、委員会は本日で一旦取りまとめとなるが、方針決定の内容に大きく影響する事案などが生じた場合には、改めて委員会を開催して相談できるよう、委員会を解散せずに存続したい。

【結果】

- ・意見はなく、事務局提案を了承。

以上